

2019年度第2四半期決算の概要

(2019年4月1日～2019年9月30日)

ご説明資料

 **山陽特殊製鋼株式会社**

2019年11月21日

目次

1. 需要動向

自動車市場の動向、外部環境の動向、特殊鋼市場の動向

2. 2019年度第2四半期決算の概況

損益の概要

構造ベース利益について

業績推移(四半期)

営業利益の変化要因

(2018FY上→2019FY上、2018FY下→2019FY上、2019FY1Q→2019FY2Q)

セグメント別損益

貸借対照表

キャッシュ・フロー計算書

D/Eの推移

(参考)設備投資・減価償却費の推移

3. 2019年度業績予想等

2019FY業績予想の修正について

Ovako業績、Ovakoのサーチャージ制度について、MSSS業績

営業利益の変化要因(2018FY実績→2019FY今回予想、2019FY上期実績→2019FY下期今回予想)

4. 株主還元

2019FY中間配当および配当予想の修正について

自己株式取得および自己株式消却について

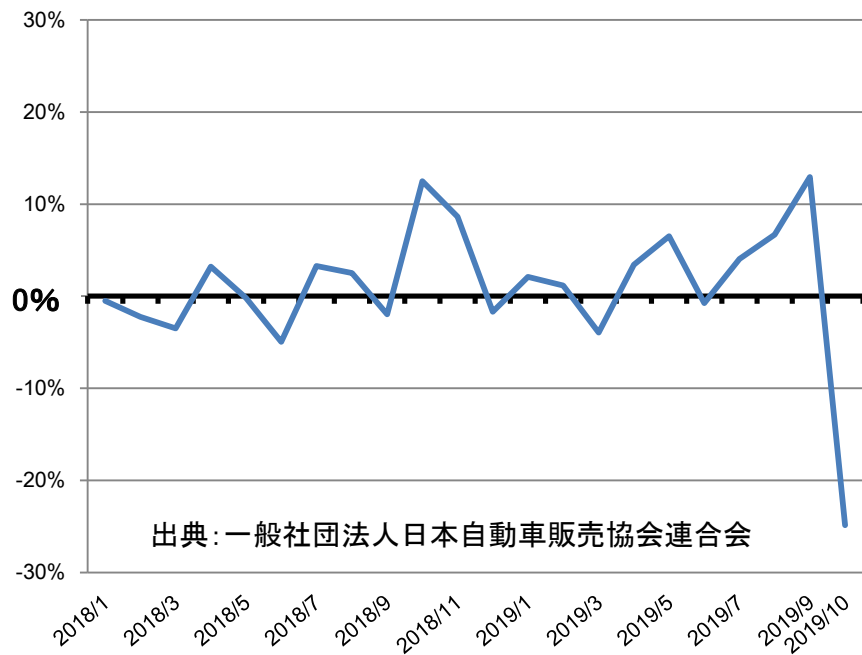
EPS・DPS

5. トピックス

自動車市場の動向

日本自動車販売台数

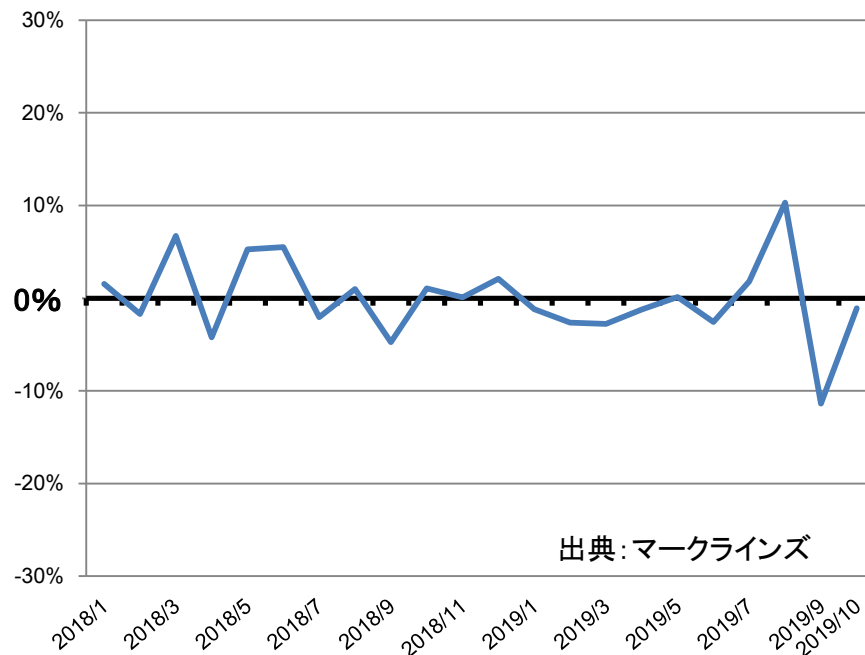
(前年同月比増減率)



新車種販売効果もあり、対前期比で横這い
 2019/07~09は消費税増税前の駆け込み影響あり
 2019/10は消費税増税後の反動で約-25%減

米国自動車販売台数

(前年同月比増減率)

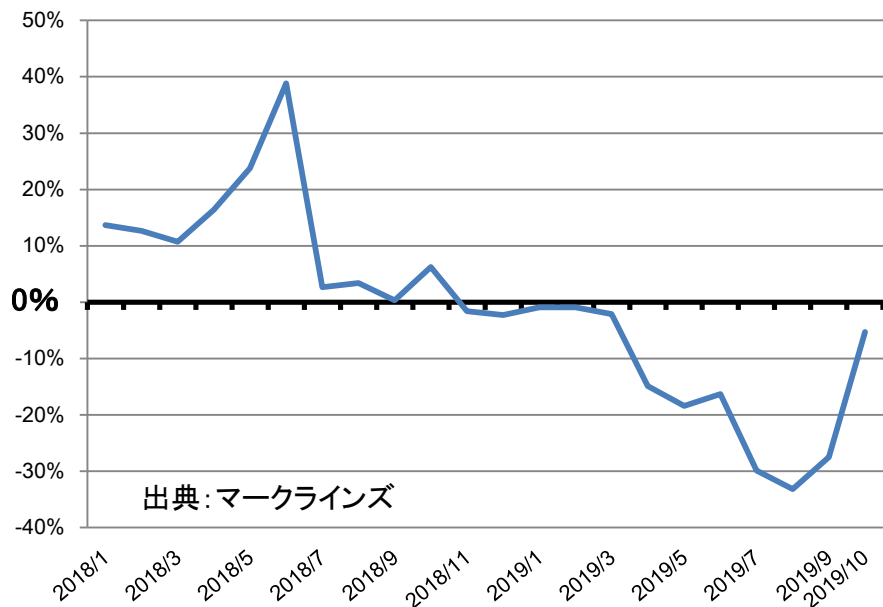


2018年の自動車販売は横ばい推移。米中貿易問題の影響から足元鈍化傾向。

自動車市場の動向

インド自動車販売台数

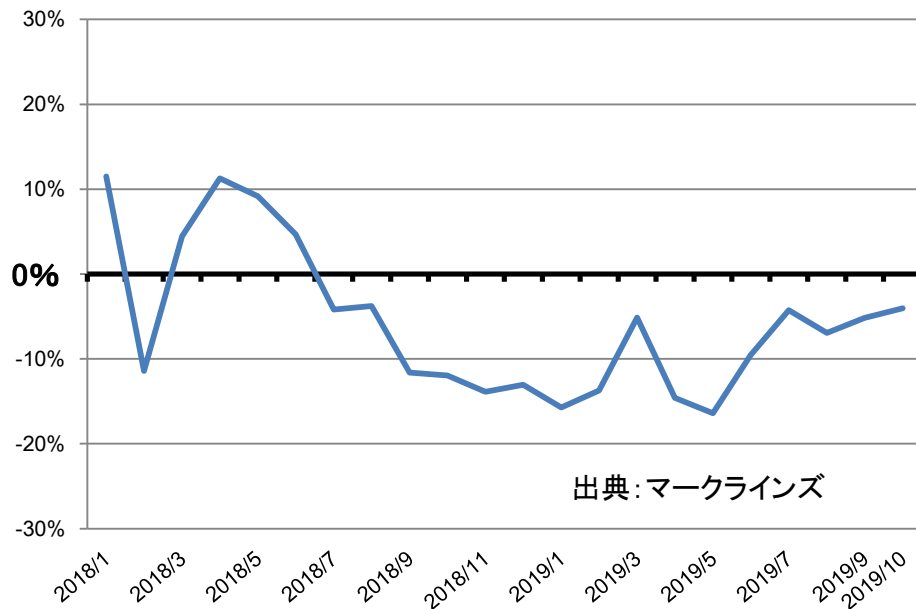
(前年同月比増減率)



保険料引上げ、燃料価格上昇、自動車ローン貸渋り、雇用環境悪化などの影響で、2018/06頃から長期にわたり落ち込みが継続、2019/10に回復基調。足元対前期比で約-5%。

中国自動車販売台数 (工場出荷台数ベース)

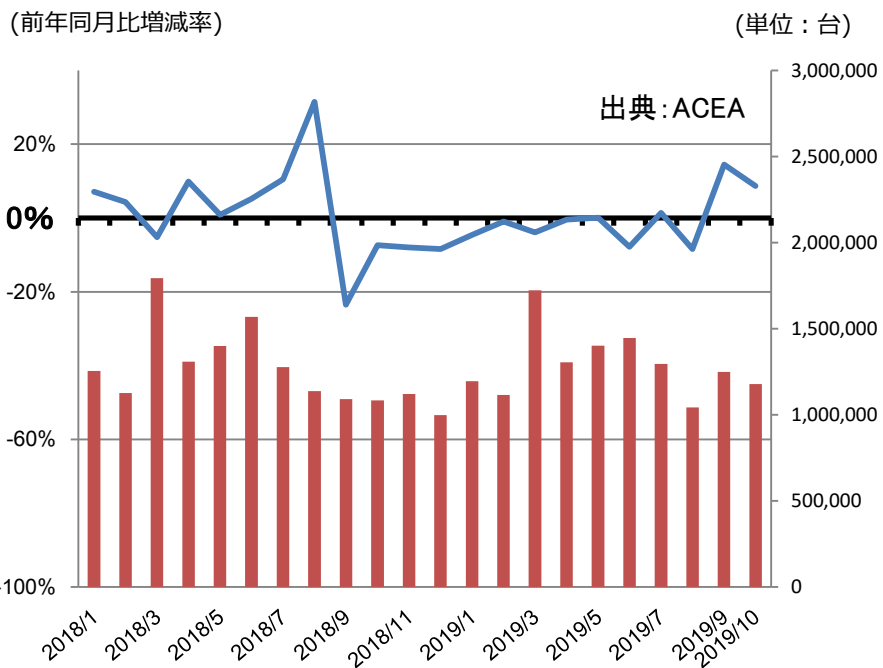
(前年同月比増減率)



米中貿易摩擦、都市部での新排ガス基準導入影響から対前期比で落ち込。

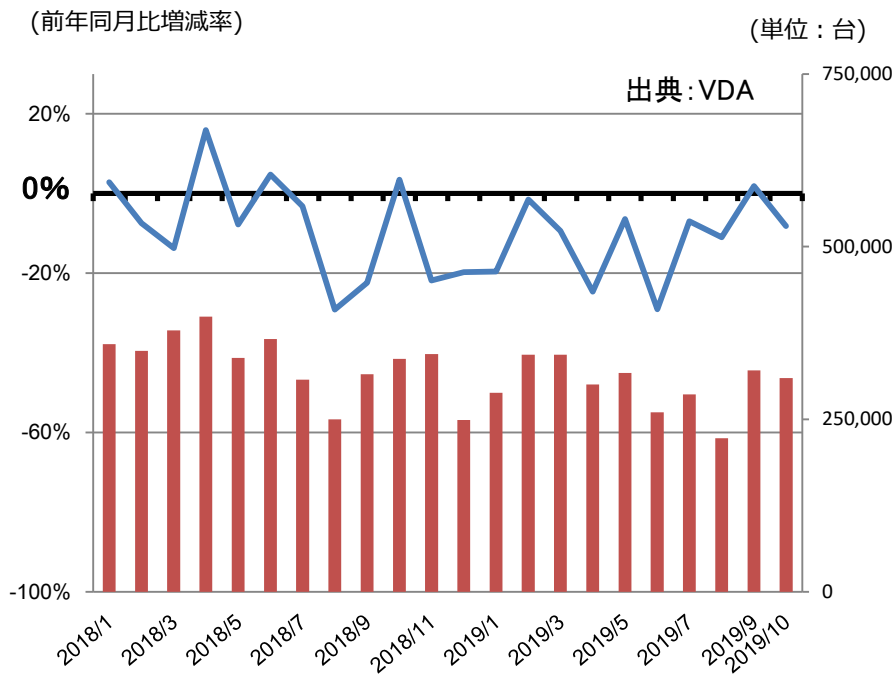
自動車市場の動向

欧州自動車販売台数



2018/09の急激な落込みはWLTP導入影響。
以降はブレクジットや米欧貿易摩擦などの懸念材料もあり、低調な推移。
2019/09は2018/09の急激な落込みと比較すると回復(対前年同月比+14.5%)しているが停滞基調。

ドイツ自動車輸出台数

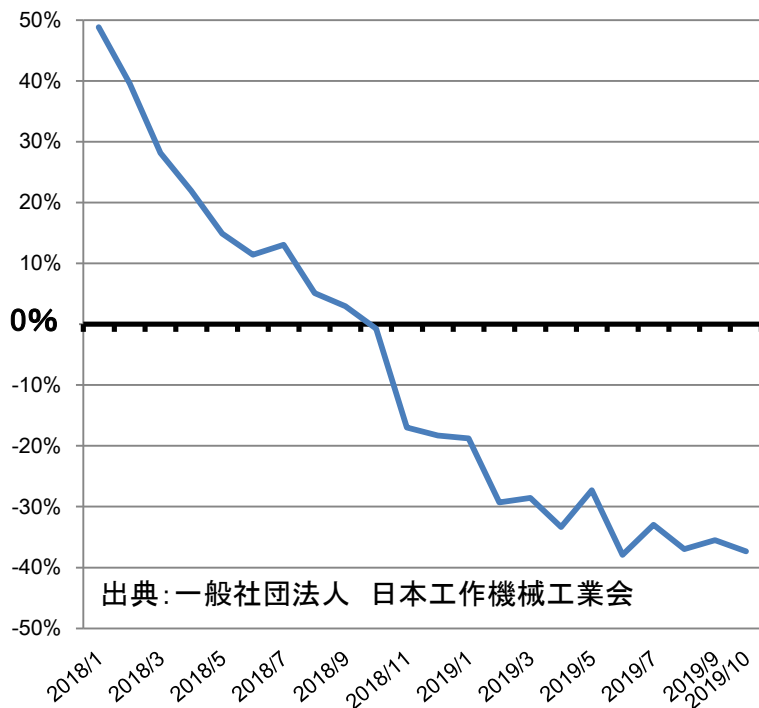


米中貿易摩擦の影響等で中国での自動車需要が減少、在庫調整もあり下落基調。
足元2019/10は対前年同月比約-8%。

外部環境の動向

工作機械受注金額（日本）

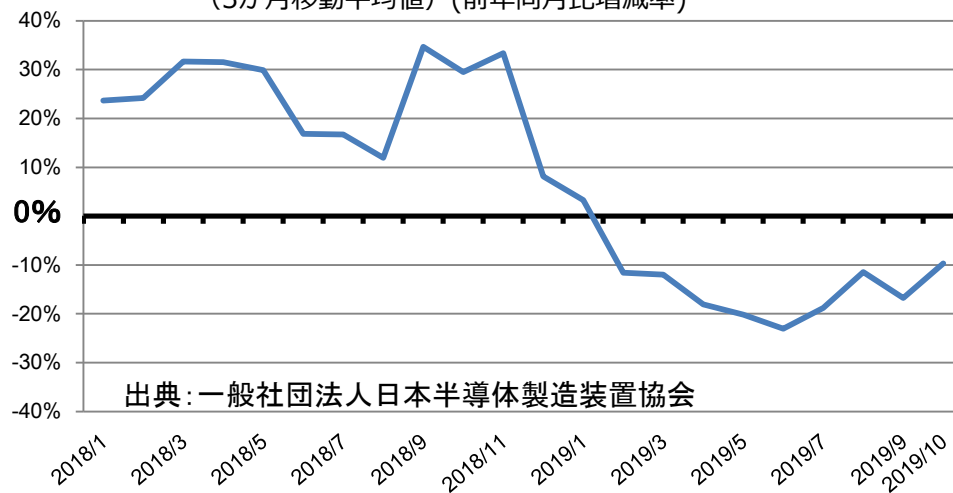
(前年同月比増減率)



- ・2017年から2018年までは、中国スマホ向け需要拡大が続き空前の好況。
- ・2018年秋ごろより米中貿易摩擦影響が、精密機械から自動車や一般機械向けに広がり、下落基調。足元対前期比で-40%程度で横ばい推移。

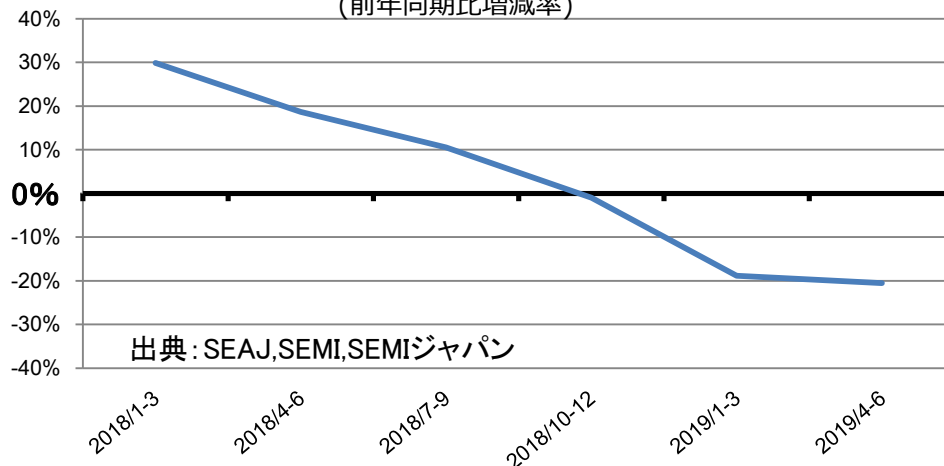
半導体製造装置販売金額(日本)

(3か月移動平均値) (前年同月比増減率)



半導体製造装置販売金額(世界)

(前年同期比増減率)

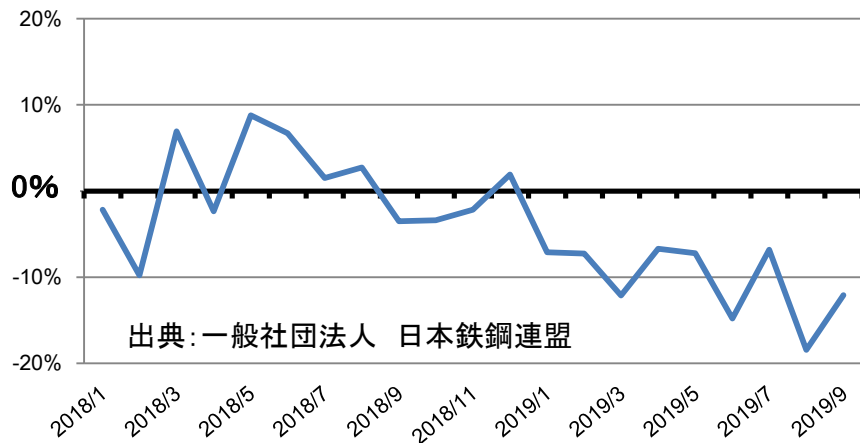


2017年から2018年までは、中国での需要拡大が続いていたが、米中貿易摩擦影響から落ち込む。足元下げ止まり感。

特殊鋼市場の動向

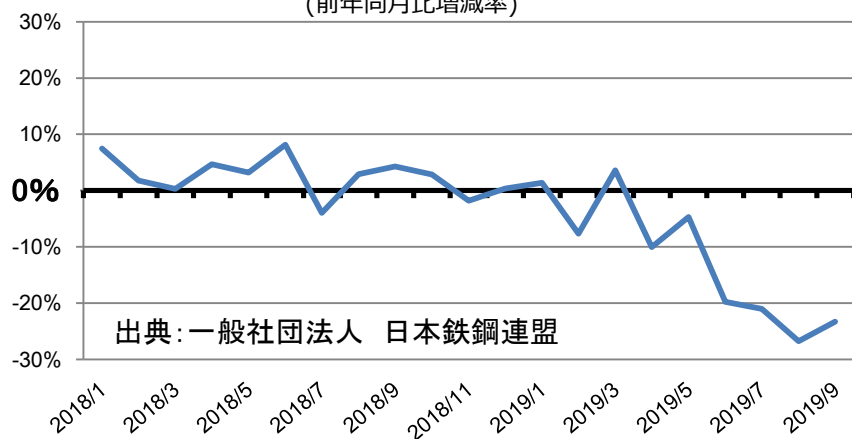
日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）

(前年同月比増減率)



日本特殊鋼受注数量(軸受鋼)

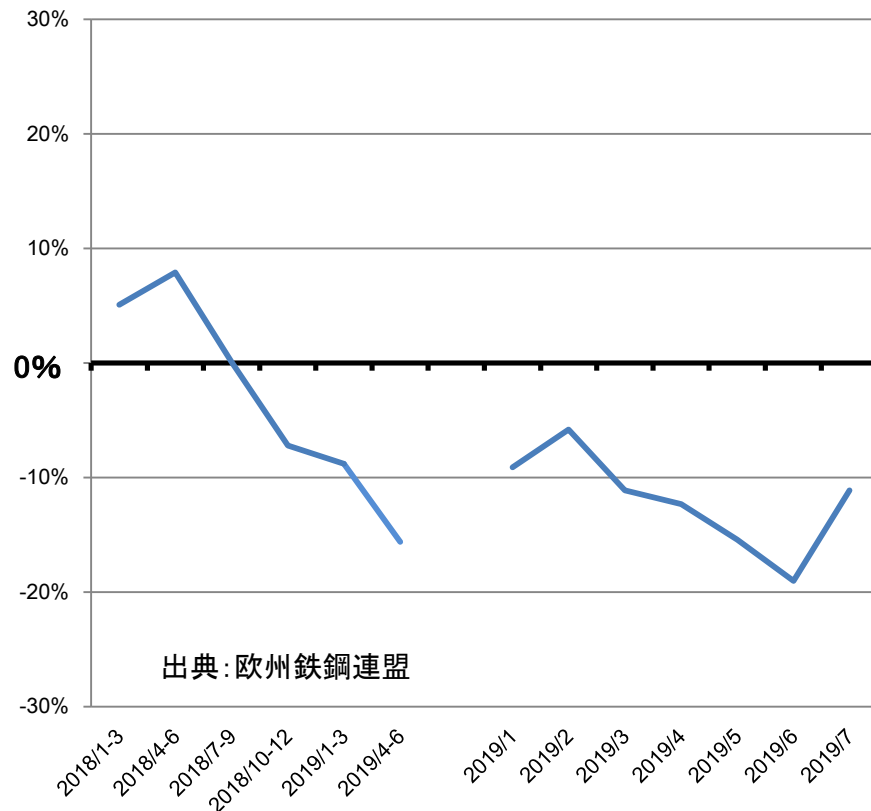
(前年同月比増減率)



2018/11から前期比を割込み以降マイナス推移
(世界各国での自動車・建機・産機・半導体関連向け需要低迷影響)

欧州デリバリー数量 棒鋼 & 平鋼/構造用合金鋼

(前年同期比増減率)



2018/7-9から前期比を割込み以降マイナス推移
(自動車向け需要低迷およびサプライチェーンによる在庫調整影響)

損益の概要

(単位:億円)

	2019FY上期 (A)		2018FY上期 (B)		対前年同期 (A)-(B)	
	金額	売上高 比率(%)	金額	売上高 比率(%)	金額	増減率 (%)
売上高	1,461	100.0	897	100.0	+564	+62.8
営業利益	26	ROS 1.8	58	ROS 6.5	-32	-55.1
内、当社単体	30	-	55	-	-25	-45.3
内、Ovako (注1)	17	-	-	-	+17	-
内、MSSS (注1,4)	▲4	-	1	-	-5	-
内、のれん償却費	▲15	-	▲1	-	-14	-
経常利益	22	1.5	57	6.4	-35	-61.2
純利益(注2)	14	0.9	51	5.6	-37	-72.7
純利益(構造ベース)(注3)	29	2.0	37	4.1	-8	-22.3
売上数量(千t)	902	150.3/月	571	95.2/月	+331	+55.1/月
内、当社単体	463	77.1/月	532	88.6/月	-69	-11.5/月
内、Ovako	387	64.5/月	-	-	+387	+64.5/月
内、MSSS (注4)	52	8.7/月	40	13.2/月	+13	-4.5/月

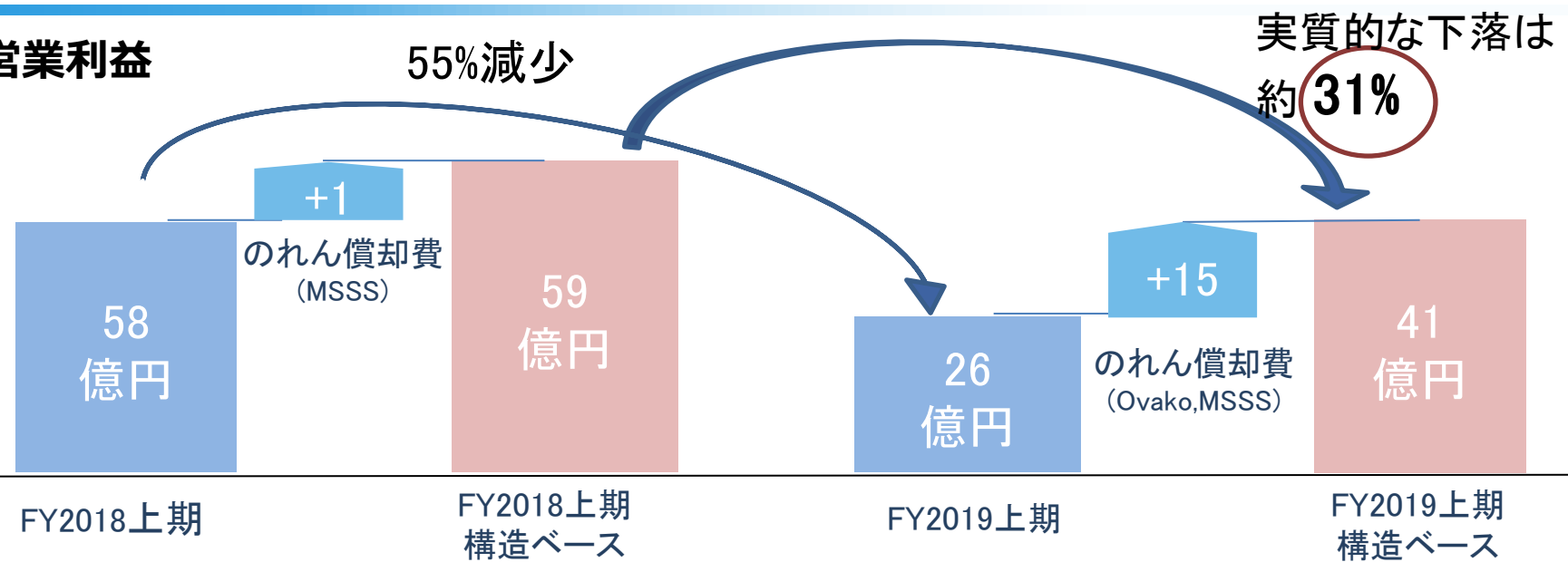
(注1) 連結する両社の決算期間は2019年1月～12月 (注2) 親会社株主に帰属する四半期純利益

(注3) 親会社株主に帰属する四半期純利益からのれん償却費や段階取得差益を調整した利益 (注4) FY2018は2Qより連結

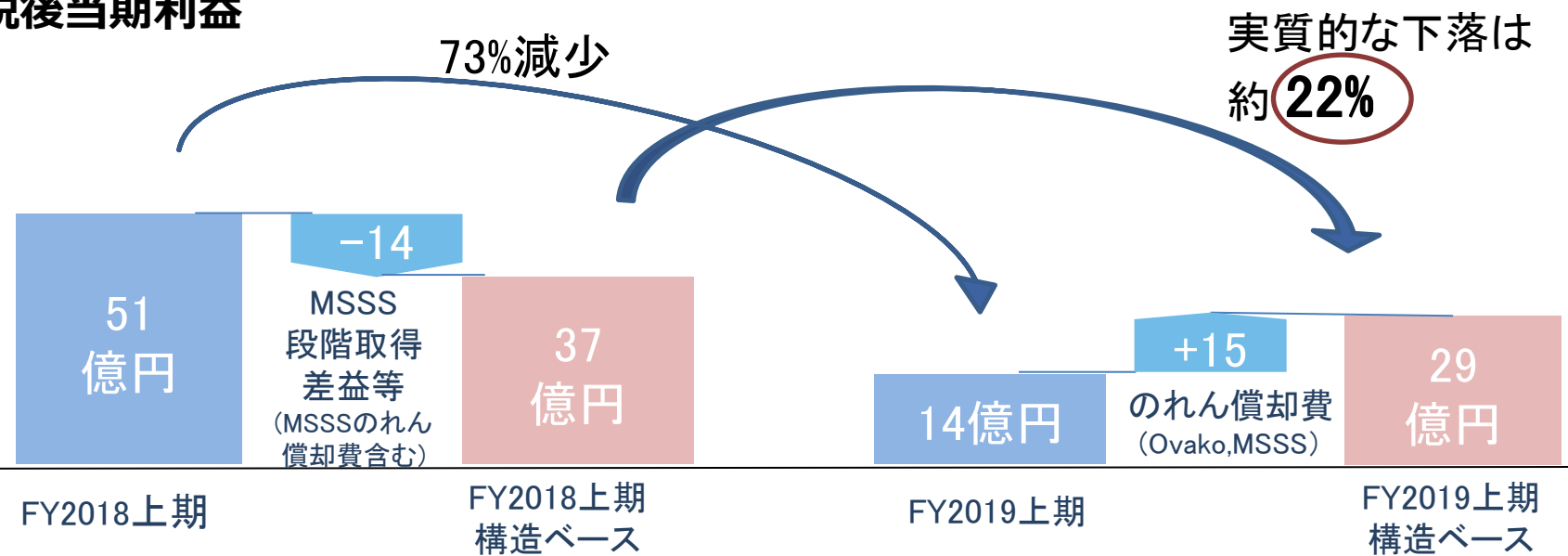
FY2018: 純利益-(MSSS段階取得差益+のれん償却費)(=51億円-14億円)、FY2019: 純利益+のれん償却費(=14億円+15億円)

構造ベース利益について

営業利益

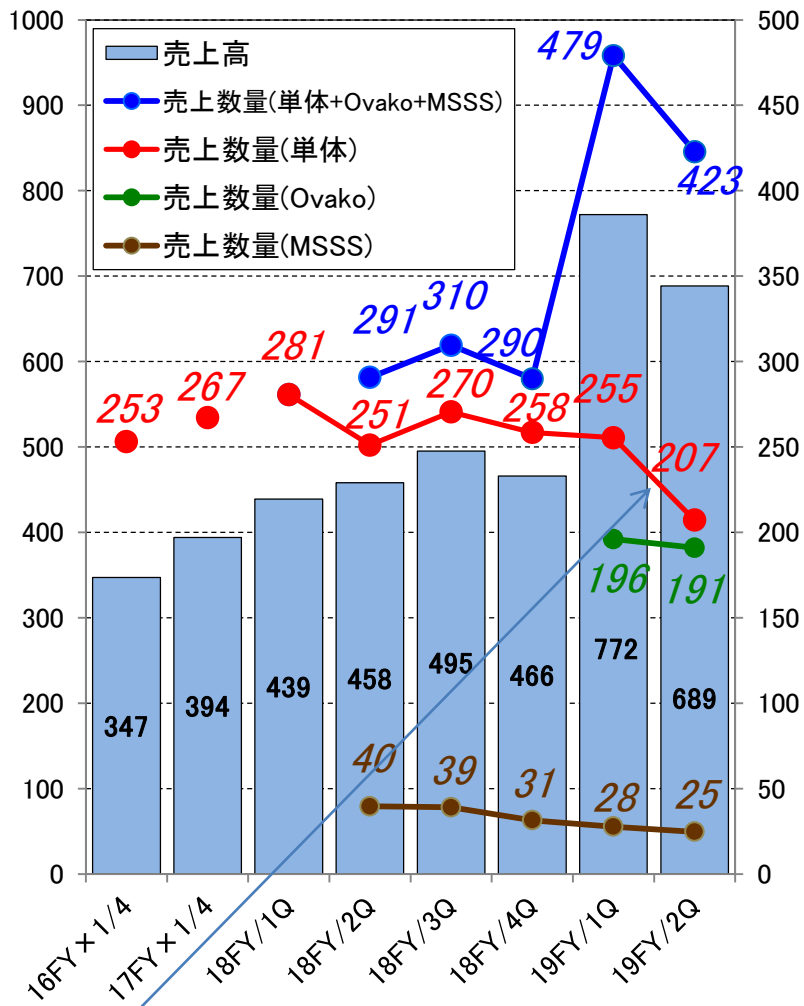


税後当期利益



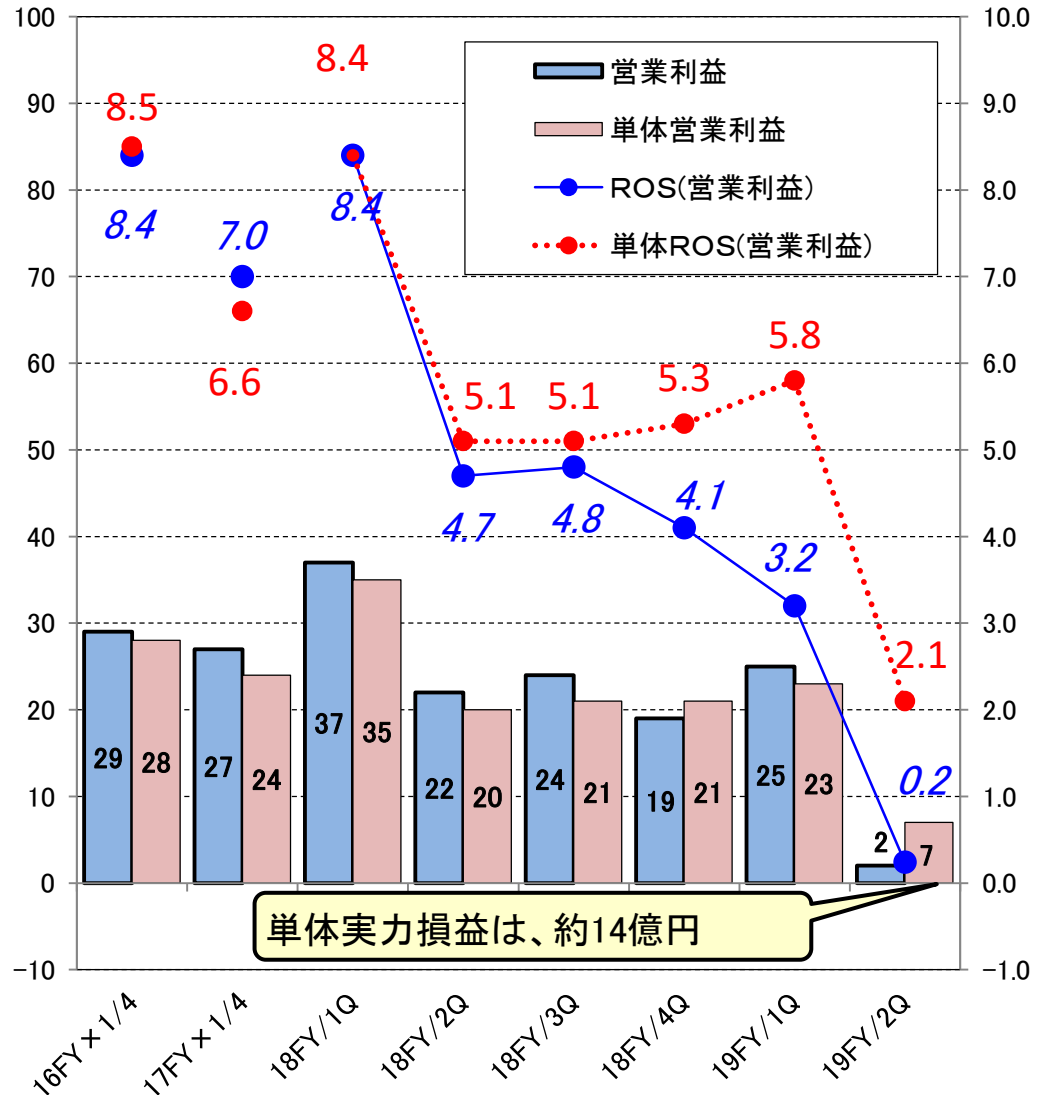
業績推移(四半期)

売上高 (億円) 売上数量 (千t/四半期)



外部環境変化や夏季休暇の影響により数量減少

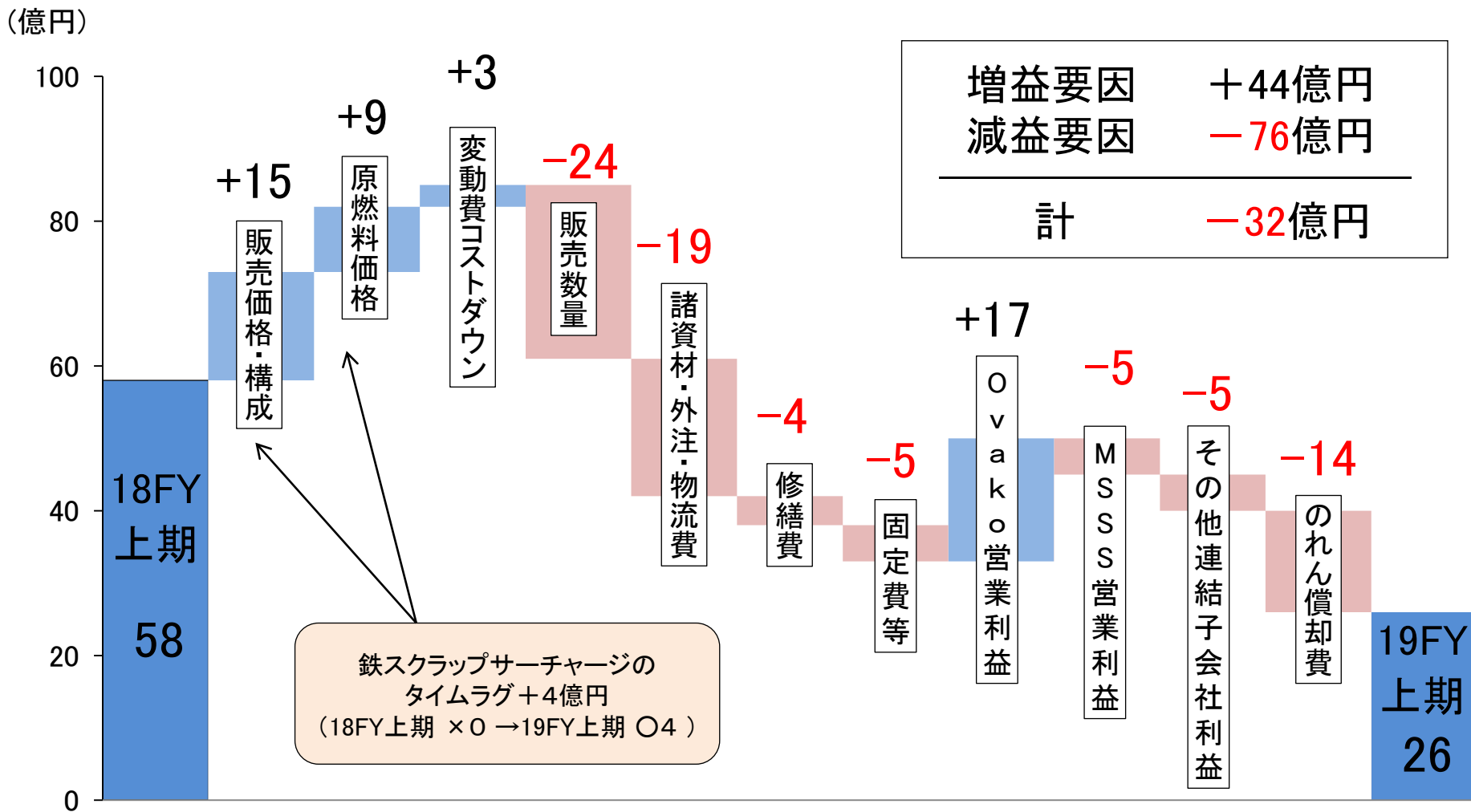
利益 (億円) ROS (%)



単体実力損益は、約14億円

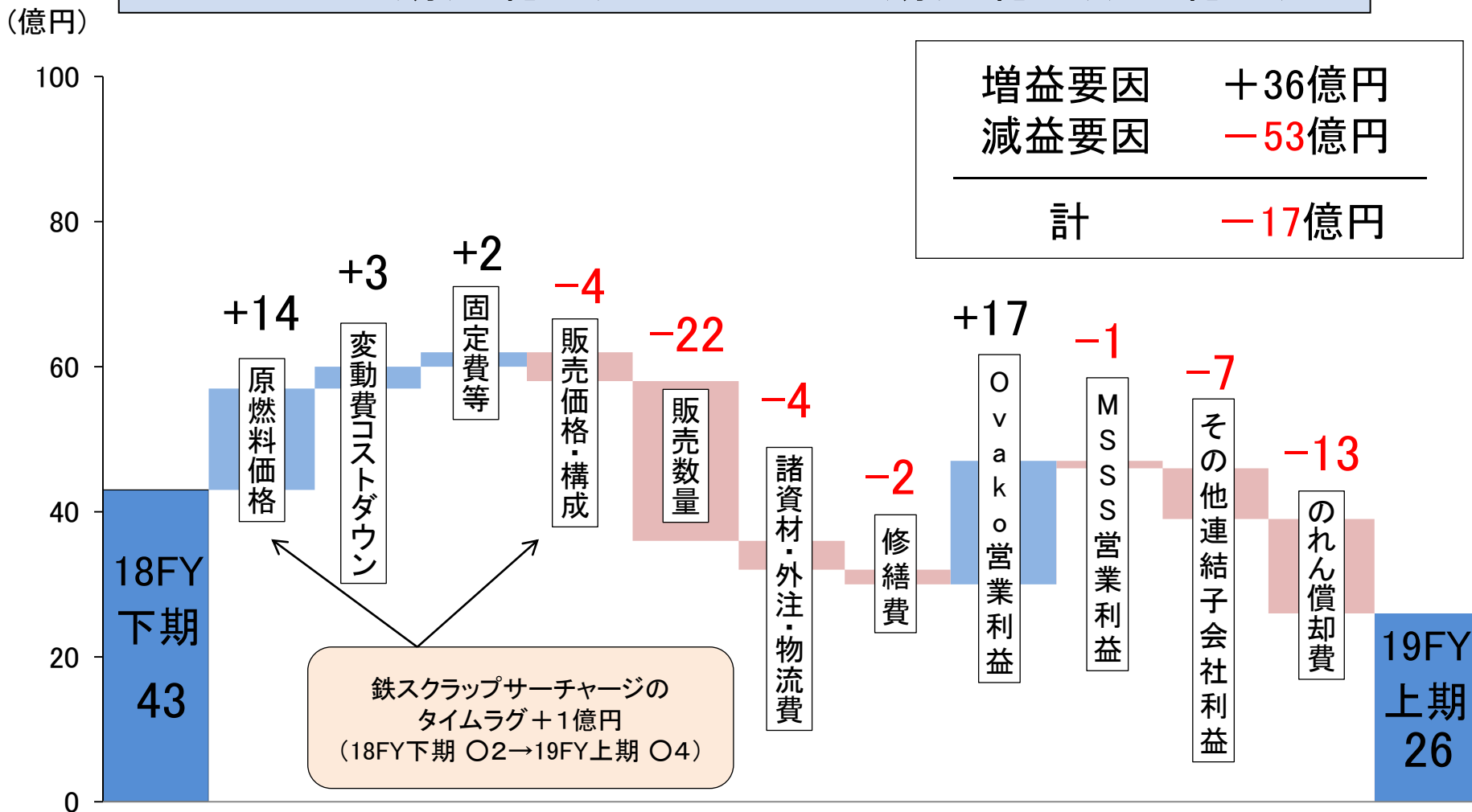
営業利益の変化要因

2018FY上期(58億円) → 2019FY上期(26億円)(-32億円)



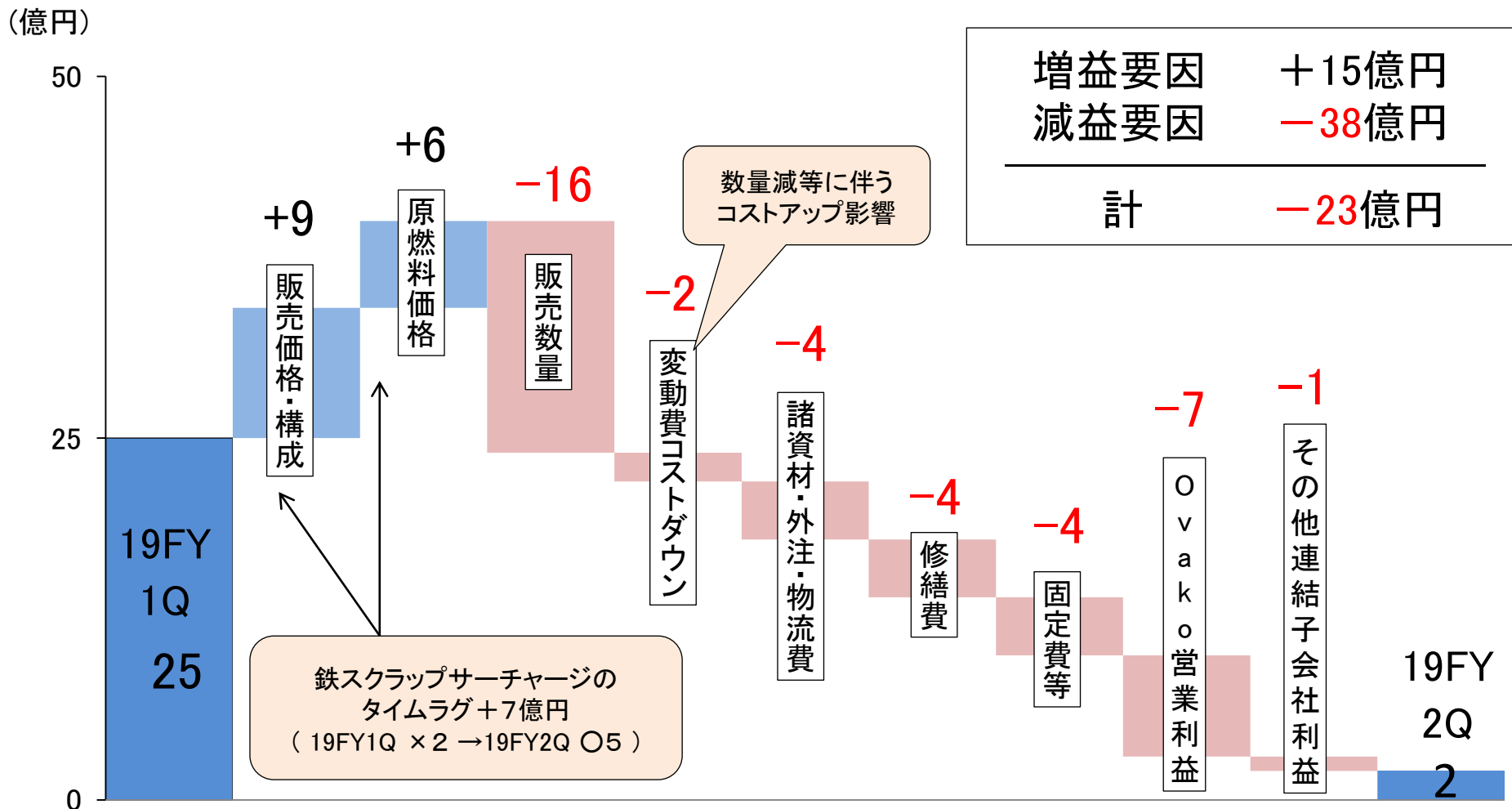
営業利益の変化要因

2018FY下期(43億円) → 2019FY上期(26億円)(-17億円)



営業利益の変化要因

2019FY1Q(25億円) → 2019FY2Q(2億円)(-23億円)

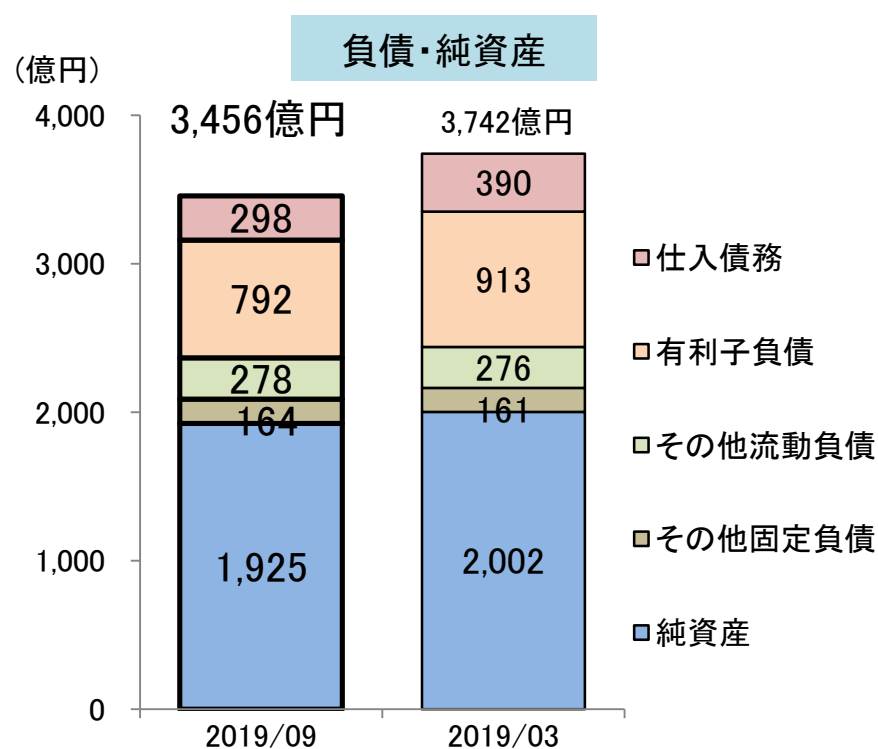
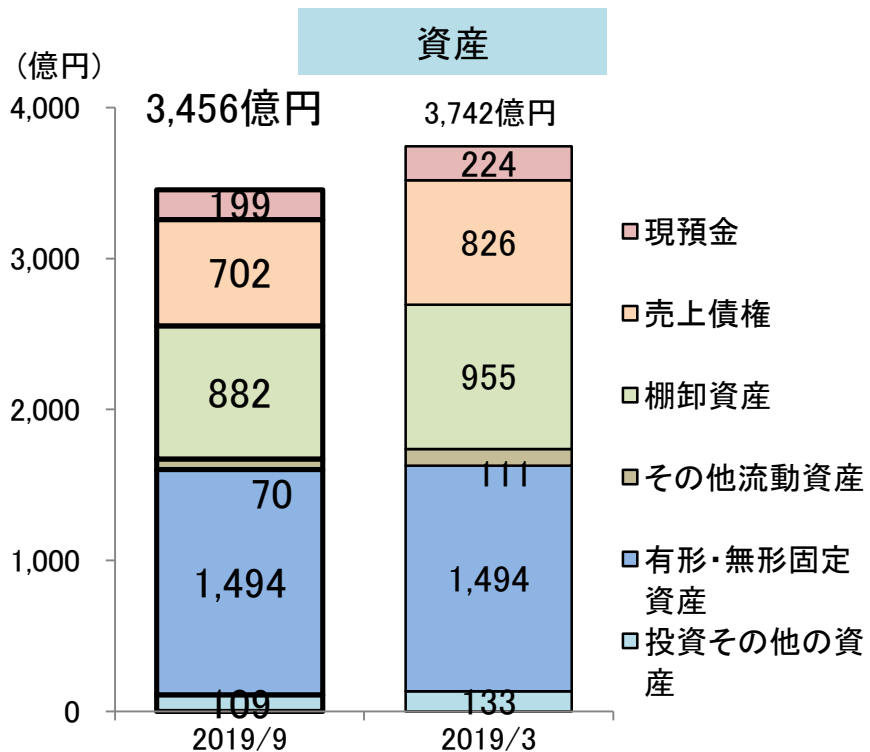


セグメント別損益

(単位:億円)

	2019FY上期(A)			2018FY上期(B)			対前年同期(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)
鋼材	1,392	24	1.7	821	50	6.1	+571	-26	-4.4
粉末	21	1	3.2	24	4	15.1	-3	-3	-11.9
素形材	91	1	1.1	99	4	3.9	-7	-3	-2.8
小計	1,504	26	1.7	943	58	6.1	+561	-32	-4.4
その他	8	0	3.3	7	0	1.4	+1	+0	+1.9
調整額	▲51	0	—	▲53	0	—	+2	-0	—
連結計	1,461	26	1.8	897	58	6.5	+564	-32	-4.7

貸借対照表



資産の主な増減 -287億円

現預金	- 25億円 : 単体+29億円、Ovako-47億円
売上債権	-124億円 : 単体-143億円、Ovako+11億円
棚卸資産	- 73億円 : 単体-35億円、Ovako-35億円、MSSS -8億円
無形固定資産	-33億円 のれん-33億円(内、為替調整勘定-15億円)

負債・純資産の主な増減 -287億円

仕入債務	- 92億円 : 単体-71億円、Ovako-11億円、MSSS-11億円
有利子負債	-122億円 : 短期借入-177億円、長期借入金 +97億円 CP -60億円、リース債務(Ovako) +18億円
純資産	- 77億円 : その他包括利益累計額-60億円 自己株式取得-14億円

(参考)主要各社の単体総資産額(連結消去前)
 当社 2,588億円 Ovako 945億円 MSSS 172億円

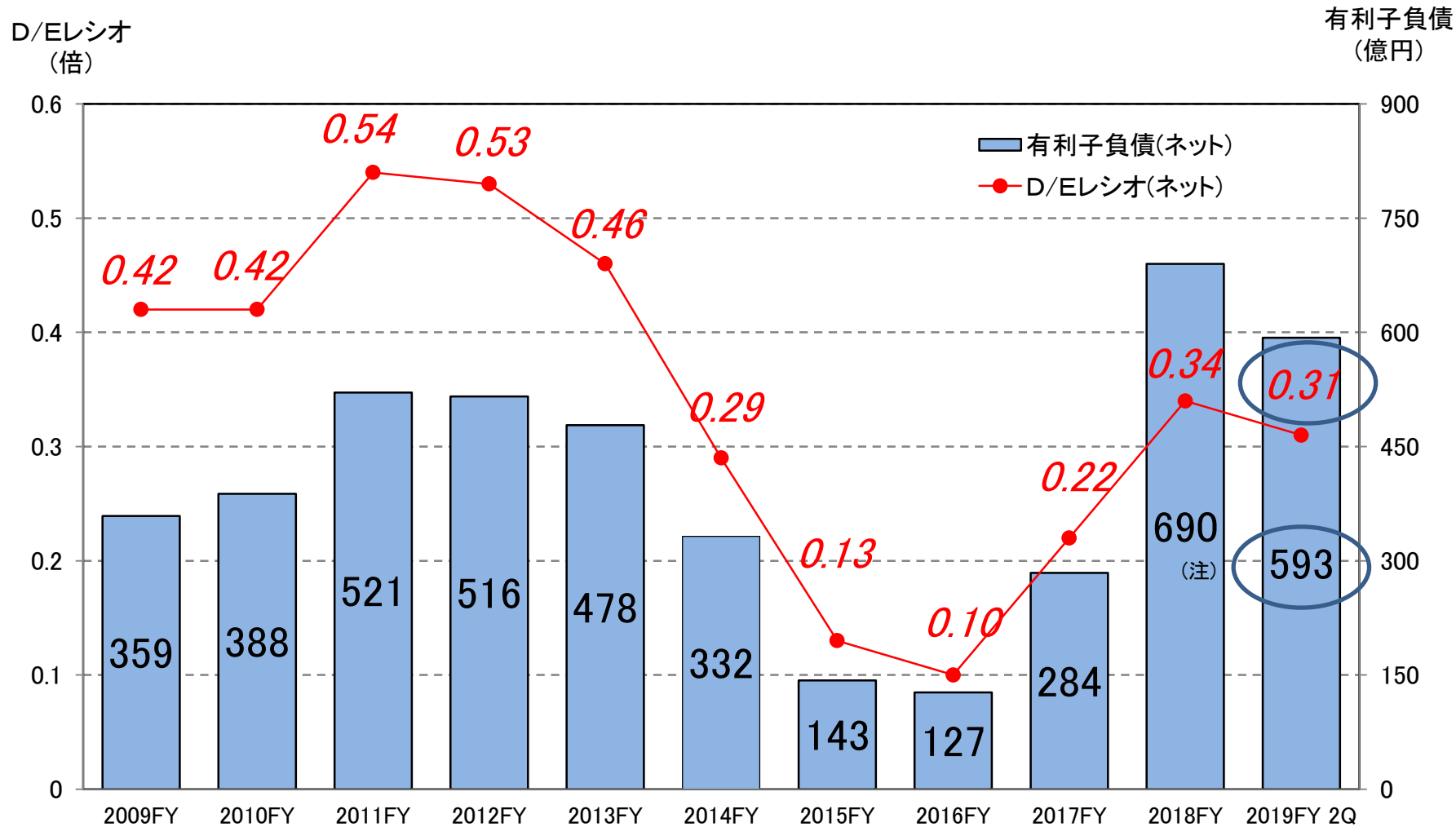
自己資本比率	2019/09	2019/03
	54.5%	52.3%

キャッシュ・フロー計算書

(億円)

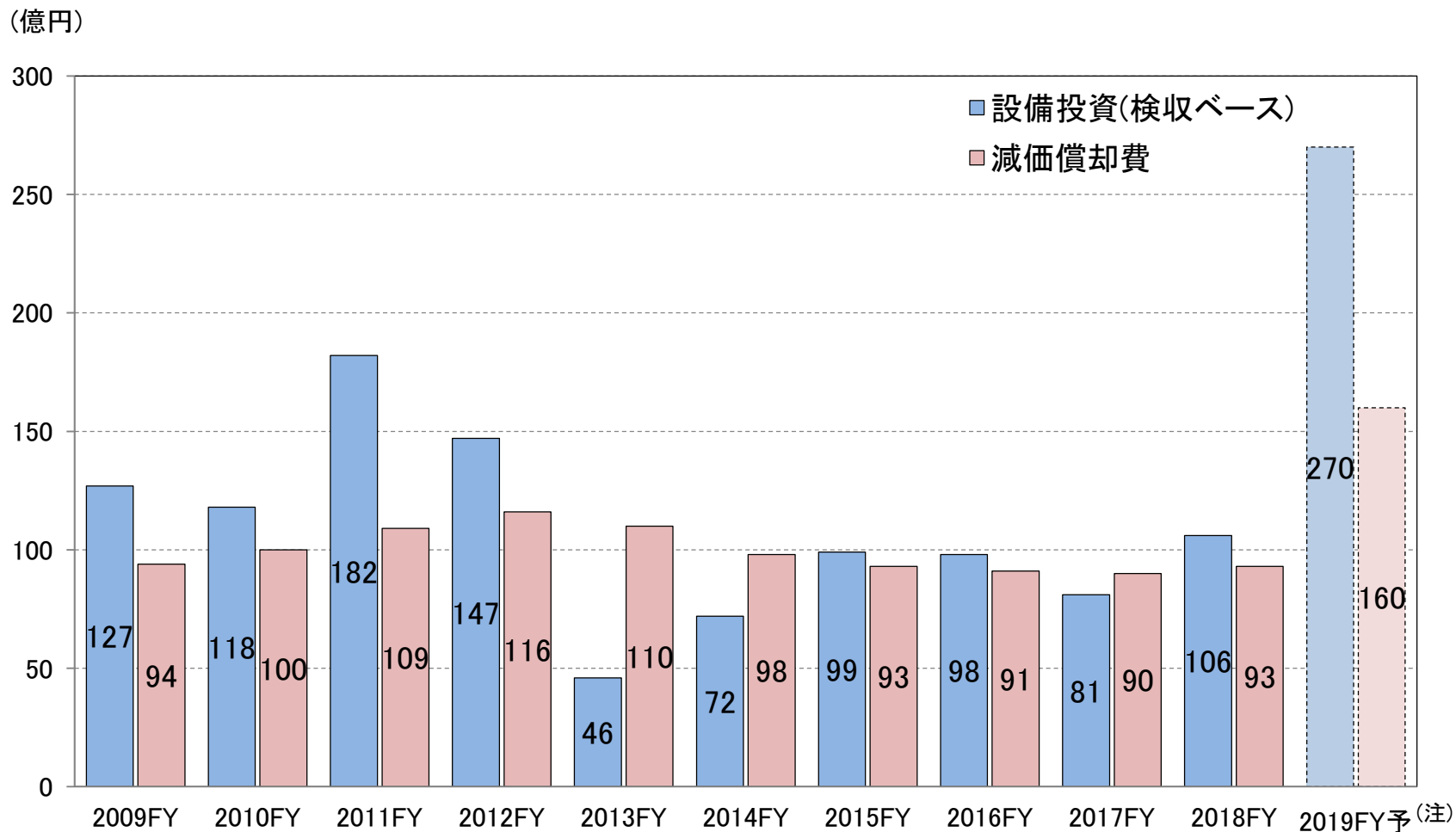
	2018FY上期	2018FY下期	2019FY上期
営業活動によるC/F (A)	33	75	164
税金等調整前当期純利益	114 { 68	87 { 35	109 { 21
減価償却費・のれん償却額	45	51	88
法人税等の支払または還付	△15	△17	△19
運転資金等	△65	6	74
投資活動によるC/F (B)	△55	△635	△10
設備支出	△38	△53	△66
子会社株式取得	△22	△583	47
株式売却収入	-	1	11
その他	4	0	△3
フリー・キャッシュ・フロー(A+B)	△22	△560	153
財務活動によるC/F (C)	△20	679	△172
借入金・社債・CP・リース債務の増減	△12	17	△128
株式の発行による収入	-	671	-
自己株式の取得または売却等	△0	△0	△30
配当金の支払	△8	△15	△14
その他	△0	6	△0
換算差額 (D)	△2	△0	△6
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	△44	119	△24

D/Eの推移



(注) 2018FYの有利子負債(ネット) 690億円の内、Ovakoは、336億円、MSSSPLは、28億円。

(参考)設備投資・減価償却費の推移



(注)2019FY予の設備投資(検収ベース)270億円の内、当社の第二棒線工場のボトルネック解消投資135億円、Ovako48億円、MSSS10億円。
2019FY予の減価償却費160億円の内、Ovako53億円、MSSS 5億円。

2019FY業績予想の修正について

(単位:億円)

	今回予想(A)			前回予想(B)			増減(A)-(B)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,461	1,309	2,770	1,500	1,500	3,000	-39	-191	-230
営業利益	26	14	40	45	65	110	-19	-51	-70
内、当社単体	30	50	80	45	56	101	-15	-6	-21
内、Ovako (注1)	17	▲17	0	17	16	33	0	-33	-33
内、MSSS (注1)	▲4	▲5	▲9	▲4	5	1	0	-10	-10
内、のれん償却費(注2)	▲15	▲15	▲30	▲13	▲13	▲26	-2	-2	-4
経常利益	22	8	30	40	60	100	-18	-52	-70
当期純利益	14	2	16	30	40	70	-16	-38	-54

売上数量(千t)	902	823	1,725	934	944	1,878	-32	-121	-153
内、当社単体	463	478	941	495	513	1,008	-32	-35	-67
内、Ovako	387	298	685	387	349	736	0	-51	-51
内、MSSS	52	47	99	52	82	134	0	-35	-35

(注1) 連結する両社の決算期間は2019年1月～12月

(注2) Ovako、MSSSに係るのれん償却費。前回予想は、Ovako株式取得に係るのれん償却費を記載。

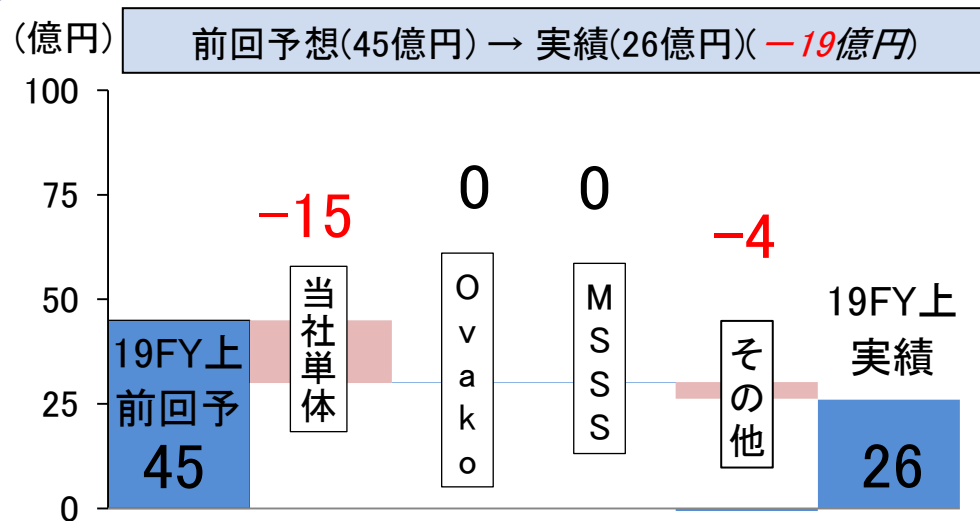
(注3) 前回予想は、2019年7月30日時点

主要前提(2019年10月以降)

- ・鉄スクラップ 20.3千円/t (姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 65\$/BL
- ・為替 105円/\$、120円/€

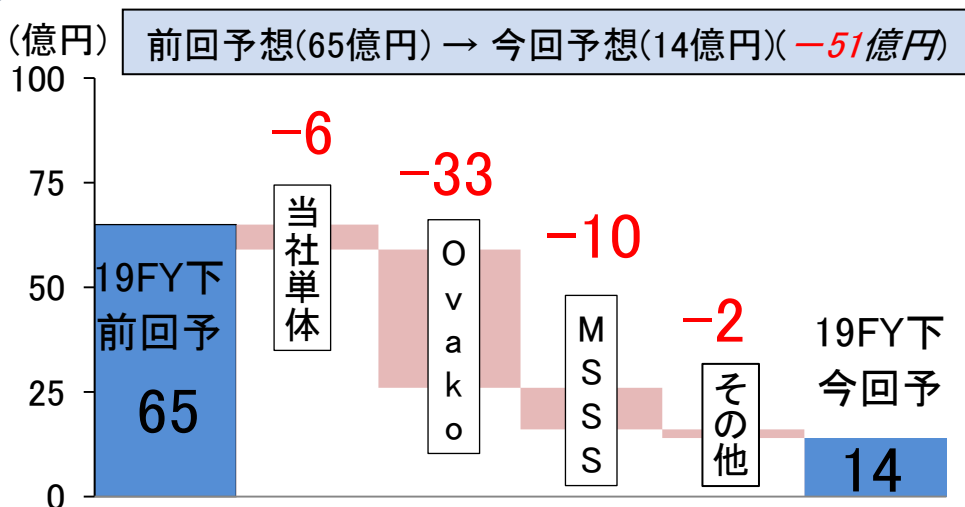
2019FY業績予想の修正について

2019FY上期実績-営業利益の変化内訳



- ・需要環境の変化により、前回予想に比べて販売数量が減少、数量減に伴うコストアップや鉄スクラップ価格低下影響の現出遅れ等により当社単体およびその他連結子会社の利益が悪化。このため、上期の営業利益は前回予想より大幅減益。

2019FY下期予想-営業利益の変化内訳

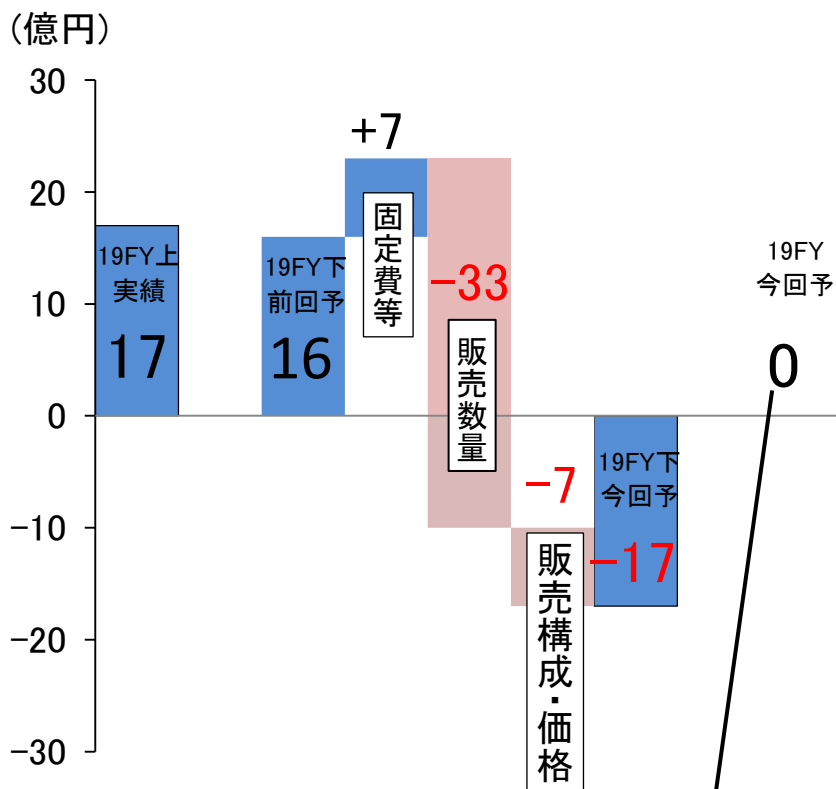


- ・当社単体では、原燃料価格の低下はあるものの、販売数量は前回予想に比べて更なる減少を織り込み、下期の営業利益は当初予想より減益の見込み。
- ・海外子会社のOvakoやMSSSは、収益改善策を実行するも、下期は大幅な減益を予想。

営業利益の変化要因

2019FY下期前回予想(16億円)

→ 2019FY下期今回予想(-17億円)(**-33億円**)



Ovakoの19FY通期の実力損益は、約12億円
(今回予想0億円+サーチャージのタイムラグ12億円)

2019年度の概況および見通し

米中貿易摩擦やBrexitの不透明感からEU経済が減速。特に、製造業の景況感悪化が顕著。EU域内の特殊鋼需要は、サプライチェーン在庫調整およびWLTP(欧州新燃費計測法)の駆込み需要後の反動で2018/10-12月に急落し、2019年に入っても改善の兆しが見えず。

<下期の前回予想→今回予想について>

- 固定費等 : シフトダウンによる人員削減、資産の売却等
- 販売構成・価格 : 鉄スクラップ価格の低下を受けたスクラップサーチャージ制度による販売価格の低下。先入先出法により、販売価格の低下がコストの低下に先行
- 販売数量 : EU域内を中心とした数量減

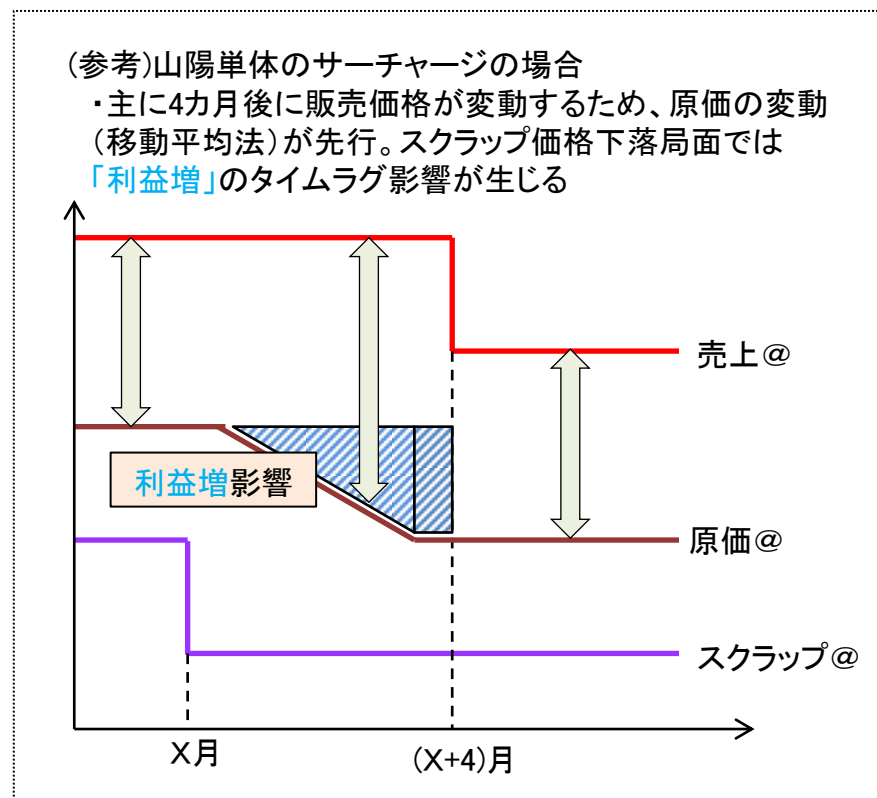
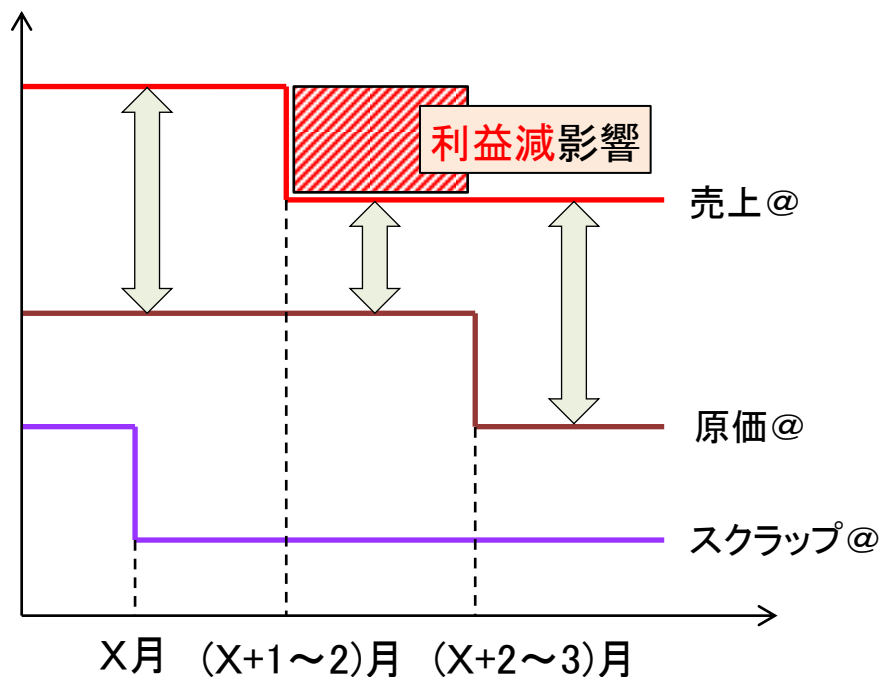
(収益改善策)

- ・3社連携によるシナジー効果の発揮
 - ① 拡販活動の推進
 - ② 操業コストの削減
 - ③ 調達コストの削減
- ・人員削減等による固定費の削減

Ovakoのサーチャージ制度について

スクラップ価格の変動と損益への影響(タイムラグのイメージ)

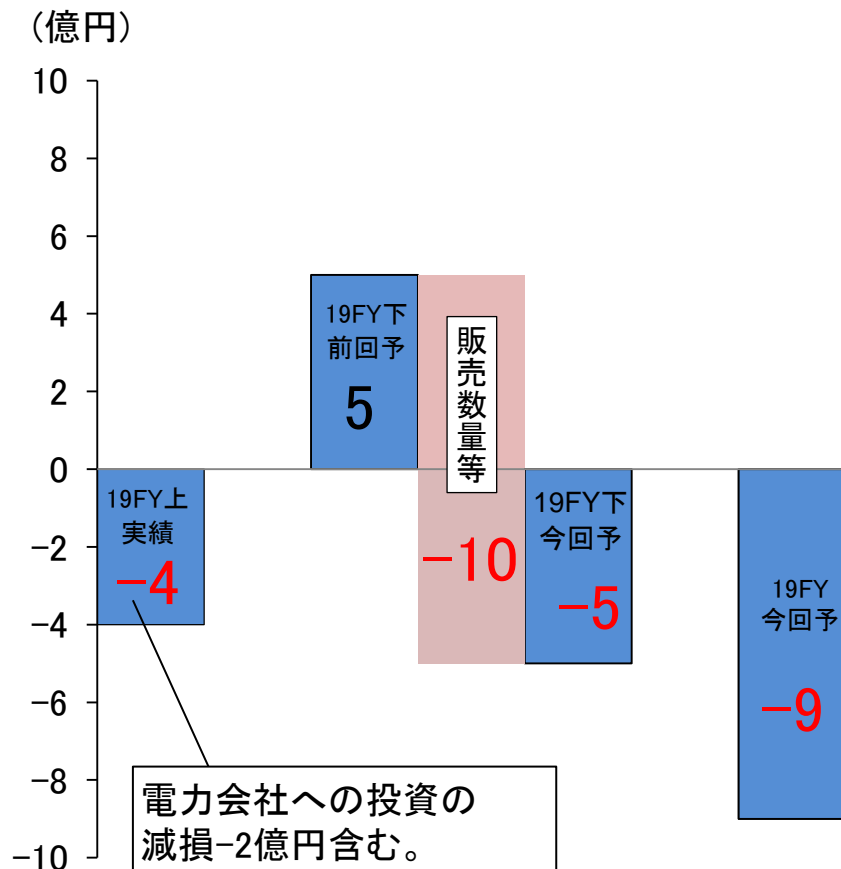
- ・Ovakoのサーチャージ制度は、鉄スクラップ価格変動の1～2か月後に販売価格が変動。
(原則として、前々月と前月の指標スクラップ価格変動を、当月出荷分に反映)
- ・原価は、先入先出法にて計算するため、鉄スクラップ価格変動の製品原価への反映が遅れるため、スクラップ価格下落局面では「利益減」のタイムラグ影響が生じる。



営業利益の変化要因

2019FY下期前回予想(5億円)

→ 2019FY下期今回予想(-5億円)(-10億円)



2019年度の概況および見通し

インド国内の自動車販売は、2018年11月から9月まで11カ月連続して前年同月比でマイナスとなり、落ち込みが▼30%程度に拡大し、想定外の低迷が継続、以下の要因により先行き不透明感継続の可能性がある。

- ・サプライチェーン全体の在庫調整の影響による鋼材需要減
- ・経済対策への期待の一方、現時点での販売回復の兆候なし

<下期の前回予想→今回予想について>

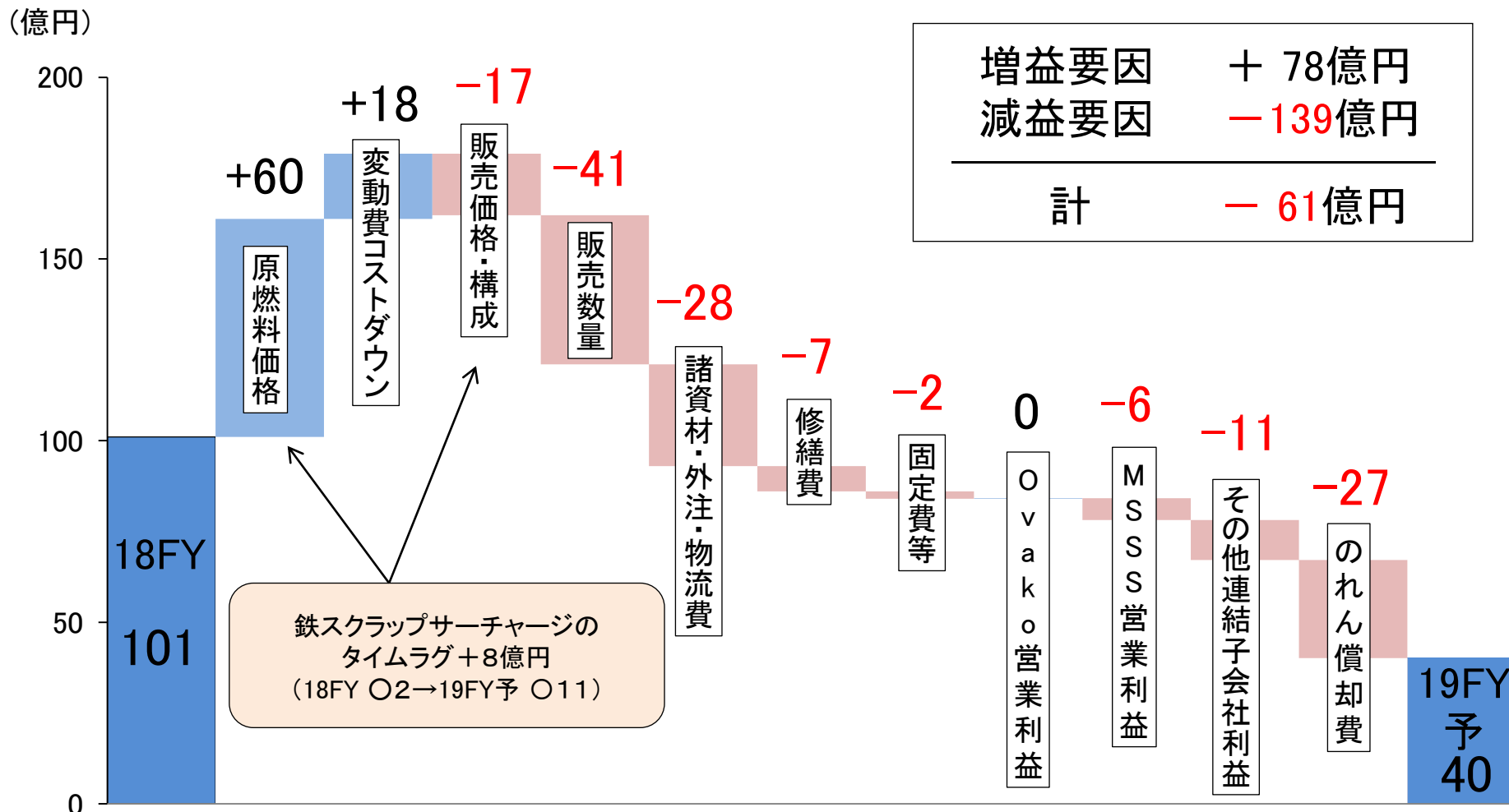
販売数量：自動車販売低迷およびサプライチェーンの在庫調整による需要減少

(収益改善策)

- ①対策済
 - ・まとめ生産によるエネルギー原単位改善や中国製電極の使用による操業コスト・調達コストの削減
 - ・鉄道向け受注の確保(2,000t/月)
 - ・要員適正化による外注費削減
- ②今後の対策
 - ・営業支店網の充実等を通じた高収益品の受注量拡大
 - ・鉄道向けの確実な販売ならびに拡販実施
 - ・エネルギー(電力・ガス)コストの削減検討

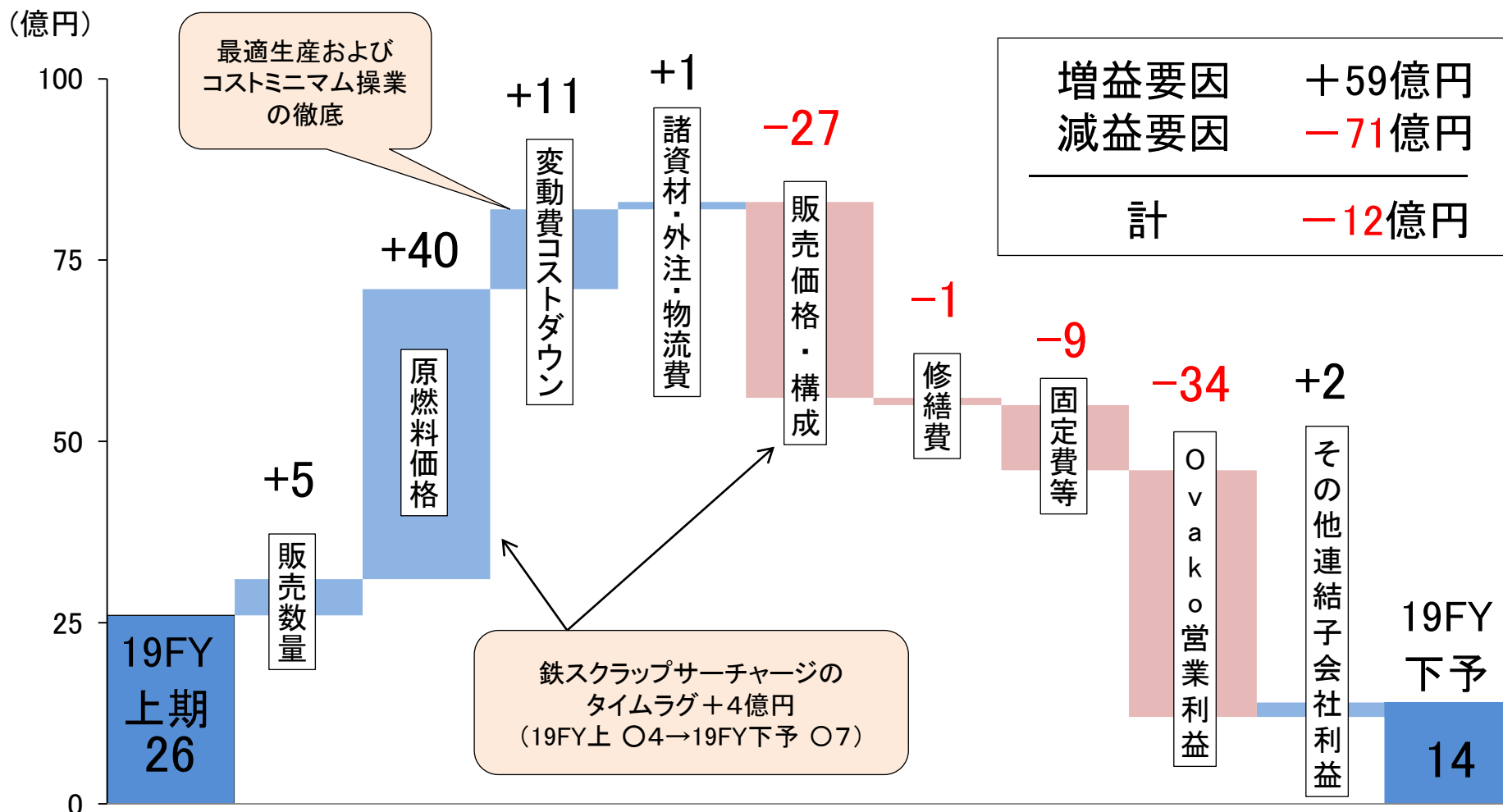
営業利益の変化要因

2018FY実績(101億円) → 2019FY今回予想(40億円)(-61億円)



営業利益の変化要因

2019FY上期実績(26億円) → 2019FY下期今回予想(14億円)(-12億円)



2019FY中間配当および配当予想の修正について

			今回予想(A)			前回予想(B)			増減(A)-(B)			(参考) 2018F Y実績
			中間 (実績)	期末 (予想)	年間	中間	期末	年間	中間	期末	年間	
1株 当たり 純利益	A	円/ 株	24.6		28.9	53.6		126.5	-28.9		-97.6	237.8
のれん 償却前 1株当 たり純 利益 (注3)	B	円/ 株	51.4		83.1	76.8		173.4	-25.4		-90.4	
1株 当たり 配当金	C	円/ 株	15.5	9.5	25.0	23.0	29.0	52.0	-7.5	-19.5	-27.0	69.0 (中間45.0、 期末24.0)
配当性向 (注4)	C/ A	%	63.0		86.5	43.0		41.1	+20.0		+45.4	29.0
	C/ B	%	30.2		30.1	30.0		30.0	+0.2		+0.1	

(注1) 2019FYの前回予想は、2019年7月30日公表値

(注2) 2019FY中間配当の効力発生日は、2019年12月2日

(注3) Ovako、MSSSに係るのれん償却前で算出。前回予想は、Ovako株式取得に係るのれん償却前で算出。

(注4) 配当性向は、1株当たり年間配当金を1株当たり当期純利益で除して算定した値を記載。

自己株式取得および自己株式消却について

①自己株式取得

(1)取得し得る株式の総数	普通株式1,730,000株(上限)(発行済株式総数の3.1%)
(2)株式の取得価額の総額	30億円(上限)
(3)取得期間	2019年6月20日から2019年12月23日
(4)現在の進捗(2019/10末時点)	1,360,000株(進捗率:78.6%)

②自己株式消却

当社普通株式 2,930,000株(消却前発行済株式総数の5.1%)を2020年1月31日に消却予定

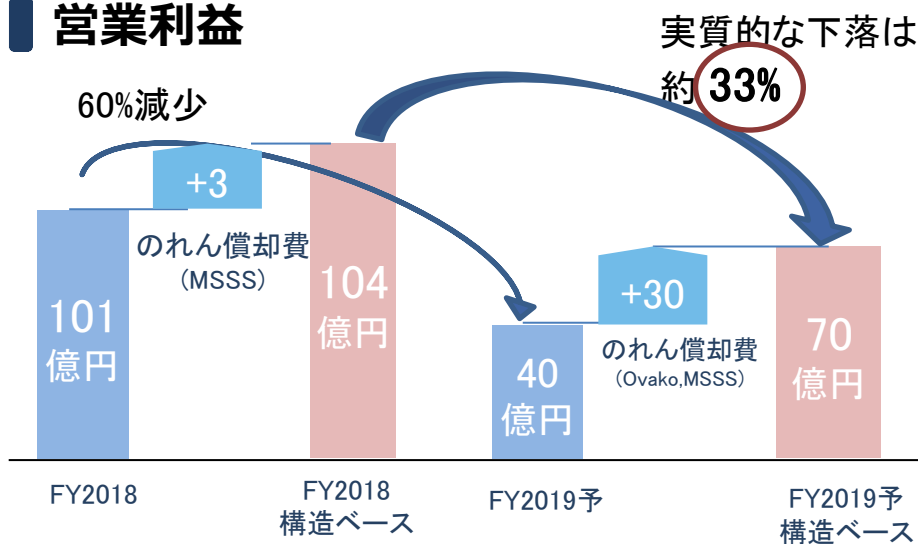
③総還元性向について

	FY2018実績	FY2019予想	
配当金	28億円	14億円	
自己株式取得額	-	25億円(注)	
株主総還元	28億円	38億円	
当期純利益	77億円	(のれん償却後) 16億円	(のれん償却前) 46億円
総還元性向	36.2%	240.1%	83.5%

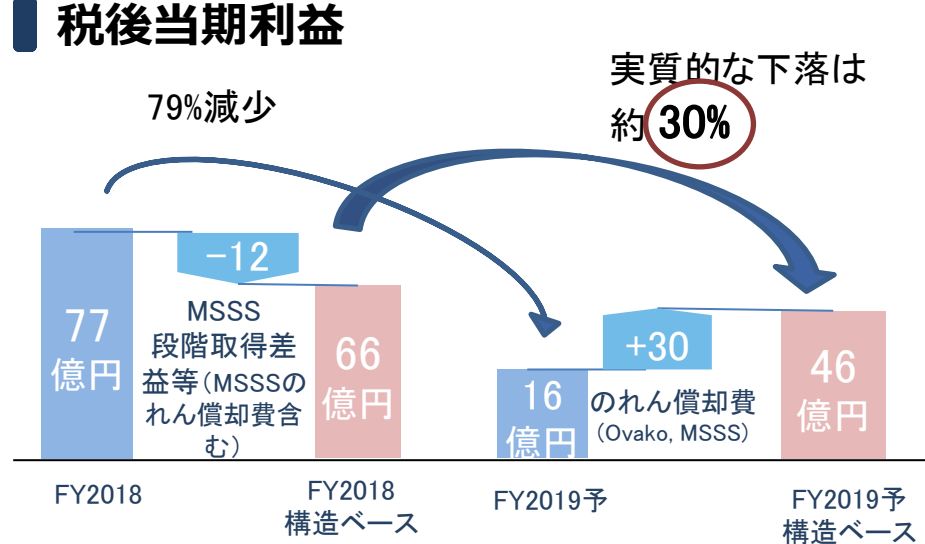
(注) 2019年10月までの取得に要した金額に、取得上限株式数(1,730千株)から2019年10月末までの取得済株式数を差し引いた株式数に10月末株価を乗じた金額を加えて算出

EPS・DPS

営業利益

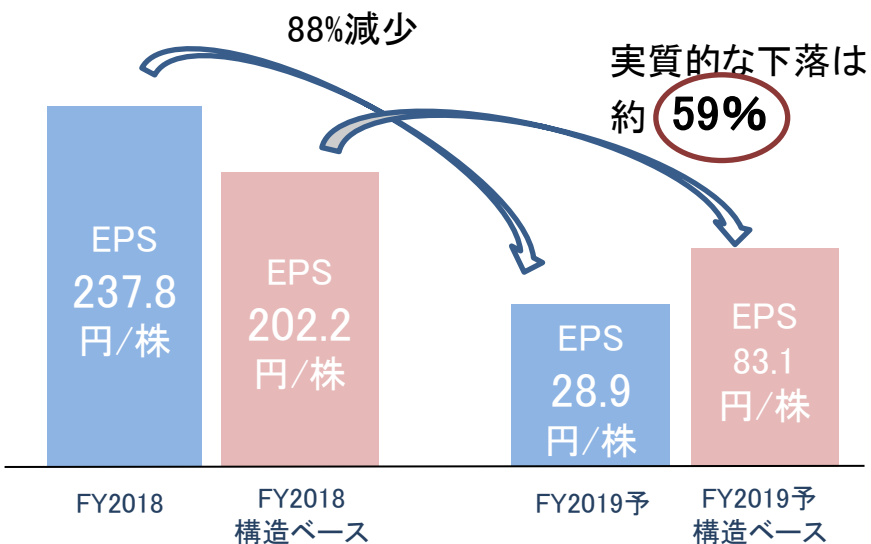


税後当期利益

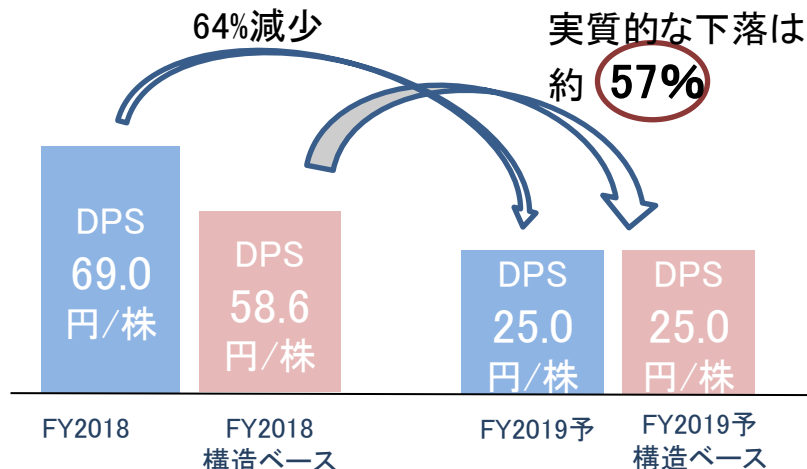


EPS・DPS

①EPS



②DPS



第二棒線工場のボトルネック解消投資 その①

φ 16～95の丸棒鋼を圧延する第二棒線工場の ボトルネック解消設備投資を実行中

設備投資額(検収ベース) 2019年度:135億円、2020年度:60億円

1. 第二棒線工場の生産能力向上

- ① RSB圧延機の導入
- ② 冷却床およびコールドシャー増設
- ③ 加熱炉の更新

2. 検査能力の確保

- ④ NM検査結束2ライン化

当社の一貫生産能力

90千トン/月→100千トン/月(12% up)

2019年7月～ 3% up

2020年1月～ 9% up

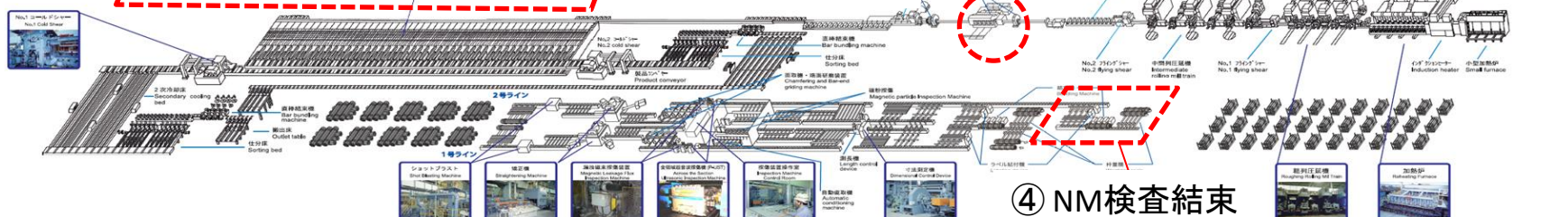
2021年1月～ 12% up

② 冷却床および
コールドシャー増設
2020年1月～



① RSB圧延機の導入
2019年7月～

③ 加熱炉の更新
2021年1月～



④ NM検査結束
2ライン化
2019年7月～

第二棒線工場のボトルネック解消投資 その②

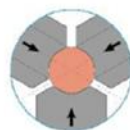
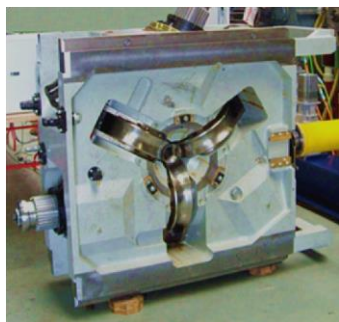
RSB圧延機の導入（2019年7月～）

※RSB圧延機：Reducing and Sizing Block の略。ドイツKocks社製。

- ・0.1mmピッチでのフリーサイズ圧延が可能
- ・高リダクション化による品質向上
 - ⇒ 熱処理省略化などの要求へ対応可能
 - 圧延まま硬さ低減
 - 優れた結晶粒度特性
- ・高リダクション化による圧延スタンド数減およびフリーサイズ圧延により、圧延機替えの工程休止時間が減少し、生産能力が向上



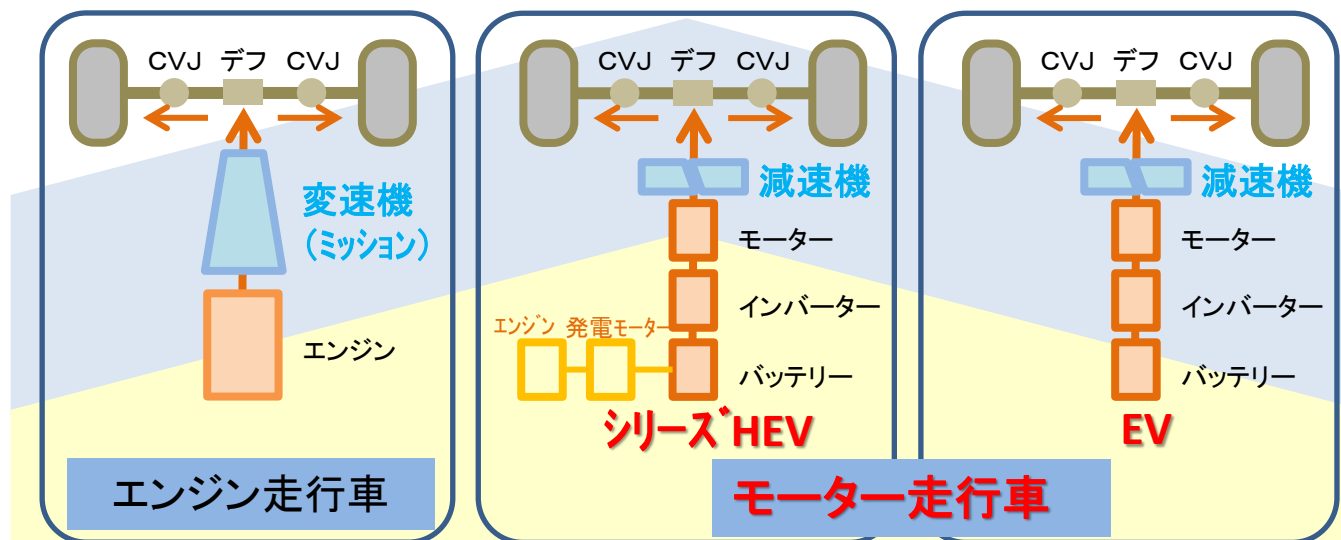
RSB圧延機の外観



RSB圧延機ロールスタンド

自動車電動化を踏まえた当社対応 その①

●自動車パワートレインの変化とニーズ



エンジン走行（エンジン－変速機型）

⇒ **モーター走行（モーター－減速機型）** への転換に伴い生じるニーズ

- 静粛性の向上：ギヤ精度向上に寄与する鋼材開発
- 電費の向上：小型軽量設計に寄与する高耐久性鋼の開発

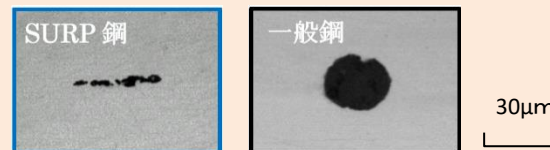
自動車電動化を踏まえた当社対応 その②

■ 極超高清浄度操業材 SURP(Sanyo Ultra Refining Process) 鋼の開発

独自の軸受鋼製造技術で培った鋼中の
欠陥(非金属介在物)低減技術



★従来にない高耐久性を発揮



肌焼合金鋼での非金属介在物の比較例
(100mm²中に観察される最大径)

■ 省合金高機能ギヤ用 ECOMAX(エコマックス) 鋼の開発

Ni、Mo等の希少元素を含まない独自合金設計にて高機能を発揮



★高耐久性⇒小型軽量設計や過酷環境下での使用に対応

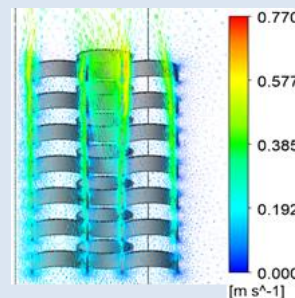
★熱処理変形抑制⇒ギヤ精度向上⇒静粛性向上に寄与

■ 熱処理変形シミュレーションシステムの開発

熱処理実験(当社保有専用炉による)とコンピューター
シミュレーションとの組合せにより熱処理変形問題
に対し顧客へソリューション提供が可能



★ギヤ精度向上⇒静粛性向上に寄与



実炉油冷での油流れの
シミュレーション例

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。